

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月22日

協議会名: 須崎市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
須崎市	南～須崎線	<p>〈前回の評価結果の概要〉 「JRを含めた各公共交通機関とコミュニティバスの接続等」を検討し、住民にとってより利用しやすいサービスを提供すること。 また、既存利用者の定着や新規利用者の獲得に向けた取組を継続し、目標に向けて取組を進めること。</p> <p>〈評価結果の反映状況〉 R7運行年度中にJRのダイヤ改正があったが、小幅な変更に留まったため、市営バスとの接続性は一定保たれた。 また、利便性の向上や利用者の維持・確保に向けて、他市町村のコミュニティバスの取組について視察・ヒアリングを実施し、今後の見直しに向けて検討を行っている。</p>	A 計画通り、事業は適切に実施できた。	<p>【乗客数】 目標達成率:82.4% 目標 :21,303 人 実績 :17,563 人 対前年比 :92.7% 対前々年比:96.8%</p> <p>【運賃収入】 目標達成率:106.5% 目標 :3,856,000円 実績 :4,107,300円 対前年比 :95.2% 対前々年比:111.7%</p> <p>【収支率】 対前年比 :-3.9% 対前々年比:-3.5%</p> <p>公共交通計画策定時の予想を上回るペースで人口減少が進んでいることなどから、乗客数は目標を下回る結果となっている。 また、物価高や人件費の増加により運行経費が大幅に増加しているため、収支率は悪化傾向にあるが、引き続き利用者及び収入の確保に努め、市民の移動手段としての役割を果たしていく。</p>	運行時刻やルートの変更について、市内小中学校統廃合に伴う児童生徒の通学利用を想定するほか、住民等から要望のある多ノ郷駅前(北側)を通るルートの検討を含むJRなど他の公共交通機関へのスムーズな乗り継ぎ等について、引き続き関係機関と協議・検討を行う。